

## 「第1期中期目標の期間における業務の実績に関する報告書」 の概要について

[ 地方独立行政法人法に基づく「法人評価」 ]

### ○自己評価結果（案）の概要

| 大項目  | 項目数          | 自己評価結果（結果別の項目数） |              |    |   |
|--|--------------|-----------------|--------------|----|---|
|  |              | IV              | III          | II | I |
| 第1 教育に関する目標を達成するための措置<br>〔報告書 P.3～11〕            | 70           | 2               | 68           |    |   |
| 第2 研究に関する目標を達成するための措置<br>〔報告書 P.12～16〕           | 24           | 2               | 22           |    |   |
| 第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置<br>〔報告書 P.17～21〕         | 32           | 1               | 31           |    |   |
| 第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置<br>〔報告書 P.22～24〕 | 17           |                 | 17           |    |   |
| 第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置<br>〔報告書 P.25～26〕      | 11           | 1               | 10           |    |   |
| 第6 自己点検評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置<br>〔報告書 P.27〕   | 4            |                 | 4            |    |   |
| 第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置<br>〔報告書 P.28～29〕      | 9            |                 | 9            |    |   |
| 合計<br>(うち再掲を除く)                                  | 167<br>(144) | 6<br>(6)        | 161<br>(138) |    |   |

#### <法人による自己評価基準>

- IV 「計画を上回って実施している」  
(達成度110%以上)
- III 「概ね計画どおりに実施している」  
(達成度 80%以上110% 未満)
- II 「計画をやや下回っている」  
(達成度 50%以上80% 未満)
- I 「計画を大幅に下回っている」  
(達成度 50%未満)

## 【報告書の主な内容】※特記事項より抜粋

### 【教育】

#### ○特色ある教育の推進

- ・10名程度の少人数ゼミを中心に、地域との対話・交流・協働を行う地域協働授業を実施した。
- ・他大学と連携し、未来の地域リーダー制度の制定、課題解決型インターンシップの実施、大学コンソーシアム科目の実施など地方創生推進事業に積極的に取り組んだ。
- ・中期計画の数値指標の地域協働科目実施教員割合は79.5%と、目標値の80%に近づいており、引き続き、地方創生に向け地域協働授業を実施していく。

#### ○魅力ある教育施設の整備

- ・中央棟の建築に伴い整備したオープンラボを共同研究企業に貸し出し、産学官連携を推進した。
- ・DXの推進に向け人材育成や研究強化を図るため、令和4年度から関係学科(知能ロボット工学科、情報システム工学科)の入学定員を拡充するとともに、学内のDX教育と研究の中心施設として、産学官の連携拠点となるDX教育研究センター(仮称)を整備することとした。
- ・看護学部への開設に伴い看護学部教育棟を整備し、実習室に最新版のシミュレーション機器を備えるなど、学習環境の充実を図った。

#### ○成果評価の教育改善への反映促進

- ・毎年、工学部、大学院の学生に対して、学期ごと授業科目ごとに授業評価に関するアンケートを実施し、その結果を教務委員会において報告するとともに、教員にフィードバックした。看護学部においては、単位不足者を対象にゼミ担当教員が個別面談を実施し、学生の状況を把握するとともに、単位修得に向け学習指導を行った。
- ・中期計画の数値指標の学生満足度(アンケート)は80.3%と、目標値の80%を上回った。今後も引き続き、学生アンケートを実施し、教育改善に反映する。

#### 《中期目標の期間終了時に見込まれる評価結果における「今後の課題」への対応》

#### ○志願者の増加に向けた大学の認知度向上を図る取組み等の強化

- ・質の高い看護人材の確保という県内医療機関等のニーズに応え、また、県内外の高校生の進学先を県内に確保し、若者や女性の県内定着を図るため、平成31年4月に入学定員120名の看護学部を開設した。
- ・東海北陸地域や北陸新幹線沿線に設置する工学部一般選抜前期日程の地方試験会場地域(愛知、石川、福井、大宮、高崎、長野、上越、宇都宮)等において、高校の進路指導教員を対象とした大学説明会や学生募集参与による高校訪問活動を実施するとともに、民間事業者が実施する進学ガイダンス等に参加したり、看護学部の開設や射水キャンパス中央棟の供用開始に伴い新たに大学紹介映像を制作・配信するなど、県外における認知度向上に努めた。
- ・工学部一般選抜前期日程において、名古屋、長野、大宮に地方試験会場を設けた。
- ・学生募集参与による県内高校への訪問活動や高校生・保護者・教員等を対象とした大学見学等において、県内高校出身者に対する推薦枠や特待生制度について積極的にPRを行った。
- ・サテライトキャンパス及び大学・学科紹介講座(教員による高校での出前講座)、大学PRキャラバン隊(教員による高校訪問活動)や学長等による県内高校訪問、オープンキャンパス、高校生・保護者・教員等を対象とした大学見学の開催などの学生募集活動を行った。
- ・こうした取組みを通じて優秀な学生の確保に努めたが、中期目標期間の数値指標のうち、志願倍率については、工学部が4.2倍(目標値:5倍台)、看護学部が4.2倍(目標値:3倍以上)であった。また、入学者県内比率については、工学部が39.8%(目標値:30%代後半)、看護学部が59.7%(目標値:60%以上)であった。
- ・次期中期目標の数値指標の達成に向け、志願者の増加に向けて学生募集広報活動を強化し、大学の認知度向上を図るとともに、県内外からの優秀な学生の確保に引き続き努力していく。

#### ○学生の県内企業への就職率向上に向けた取組み

- ・県内企業への就職活動を支援する専任の県内就職定着促進員をキャリアセンターに配置し、企業の人材ニーズ把握や採用を促進するため県内企業を訪問するなど、卒業生の県内就職定着の促進に取り組んだ。また、学生増に伴い就職支援の充実強化を図るため、キャリアセンター機能の移転拡充を行った。
- ・中期計画の数値指標の県内企業就職率は、目標値50%以上に対し46%と達成しない見込みであるが、低年時からのキャリア教育の充実や、県内企業の認知度向上、魅力の発信等を継続的に行い、引き続き、卒業生の県内就職・定着の促進に努めていく。

#### ○看護学部における県内定着に向けた就職支援体制の整備

- ・看護学部において、県内全域の様々な保健医療福祉施設において臨地実習を実施することにより、本県の医療機関等を知る機会を与えるとともに、富山キャンパスにおいて学生の県内就職に向けた情報提供等を行うキャリアセンターサテライトの設置のため必要な規程整備等を行った。

## 【研究】

### ○県内企業・医療機関等・団体などと連携した研究の促進を通じた研究成果の還元

・産学官の連携により県内医薬品産業の振興を図り、若者の地元定着等を促進する「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムに参画し、研究、人材育成、大学の魅力向上等に取り組んだ。

### ○企業・医療機関等々などとの共同研究や奨励寄附金による研究、国関連機関などからの受託研究

・ものづくりサテライト・ラボの利用促進に努めるとともに、JST(科学技術振興機構)やNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)などへの申請書類チェックを実施し、共同研究や受託研究の獲得支援に努めた。  
・中期計画の数値指標の受託研究件数は、目標値25件に対し29件と達成、共同研究件数については、目標値65件に対し64件とわずかに下回った。引き続き、これらの研究の獲得支援に努めていく。

### ○競争的外部資金の獲得

・各学科において、多くの教員が積極的に科学研究費補助金などの競争的研究資金の申請に努めた。  
・中期計画の数値指標の科学研究費補助金の採択件数は、目標値50件に対し79件と大幅に上回った。

### ○ERATO等の推進

・JSTの戦略的創造研究推進事業に採択された「浅野酵素活性分子プロジェクト(ERATO)」は、最高評価を得た。それらの研究成果を活かして共同研究に取り組んだ。また、平成30年度に採択されたくすりのシリコンバレーTOYAMA創造コンソーシアムに参画し、最先端の研究を推進した。

### ○教育研究組織の見直し

・県立の大学として、質の高い看護人材の確保という県内医療機関等のニーズに応え、また、県内外の高校生の進学先を県内に確保し、若者や女性の県内定着を図るため、新たに入学定員120名の看護学部を平成31年4月に設置するとともに、県内産業を支える人材の供給と若者の定着に一層貢献するため、下記の表のとおり、工学部の学科の収容定員の増、名称変更及び学科の新設を行った。

工学部の拡充実績(学科名、入学定員等)

| 平成27年度(2015)  | 28年度(2016) | 29年度(2017)           | 30年度(2018)    | 令和2年度(2020)                            |
|---------------|------------|----------------------|---------------|--|
| 機械システム工学科 50名 | 60名(10名増)  | 60名                  | 60名           | 60名                                    |
| 知能デザイン工学科 50名 | 60名(10名増)  | 60名                  | 知能ロボット工学科 60名 | 60名                                    |
| 情報システム工学科 50名 | 50名        | 電子・情報工学科 80名(30名増)   | 80名           | 電気電子工学科 45名(5名増)<br>情報システム工学科 45名(5名増) |
| 環境工学科 40名     | 40名        | 環境・社会基盤工学科 55名(15名増) | 55名           | 55名                                    |
| 生物工学科 40名     | 40名        | 40名                  | 40名           | 40名                                    |
|               |            | 医薬品工学科 35名(新設)       | 35名           | 35名                                    |
| 合計 230名       | 250名(20名増) | 330名(2年で100名増)       | 330名          | 340名(10名増)                             |

・また、大学院博士後期課程について、5専攻定員18名としていた入学定員を1専攻定員10名とし、前期課程も含めた大学院工学研究科の再編にも取り組んだ。

## 【地域貢献】

### ○産学交流事業

・産学交流事業として、地域連携公開セミナーなど計45件を実施し(平成27年～令和2年度)、産学間の交流を図っている。  
・テーマ別研究会について、計6テーマ(平成27年～令和2年度)を開催し、研究協力会の取り組みを推進している。

### ○企業人材育成支援

・中期計画の数値指標の若手エンジニアステップアップセミナーは、目標値80人に対し56人と達成なかったが、若手エンジニアステップアップセミナー期間中に受講者との意見交換会、終了後に各参加企業の運営委員と意見交換会を実施し、受講者相互の交流から産産連携へきっかけづくりの意味で好評であった。  
・社会人向けセミナーとしては、若手エンジニアステップアップセミナーの他に、令和元年度から先端技術リカレント教育セミナーを開講しており、令和元年度は94人、令和2年度は78人が受講しており、企業人材育成支援を図った。

### ○公開講座

・市町村連携講座を平成27年度に1件、数回の講義で構成される秋季公開講座を毎年1件開催している。更に社会人の学び直しを充実させるため、県民開放授業(オープン・エデュケーション)を実施した。  
・中期計画の数値指標の公開講座受講者数は、目標値320人に対し750人と達成した。

## 【地域貢献】

### ○地域協働支援

- ・10名程度の少人数ゼミを中心に、地域との対話・交流・協働を行う地域協働授業を実施し、地域課題を発見し、解決に向けた取り組みを実施した。
- ・中期計画の数値指標の地域課題解決に向けた企業、NPOなど連携団体数は、目標値30団体に対し39団体と達成する見込みである。

### ○国際化に対応した人材の育成

- ・後援会、同窓会からの助成金を活用したポートランド州立大学語学研修参加者への資金助成など、海外の大学への留学プログラムの充実を図った。
- ・留学生住居費補助、留学生奨学金制度のほか、国費外国人留学生に対する奨学金（渡航費）の助成に取り組むとともに、日本語教室の充実を行うなど、ASEAN諸国を始めとする外国人留学生の受け入れを支援した。
- ・中期計画の数値指標の学生の海外体験者数は、目標値90人に対し144人、留学生の在学者数は目標値30人以上に対し39人と、いずれも目標を達成した。

### ○海外大学などとの学術交流の推進

- ・海外の大学や研究機関との共同研究や研究者の交流を図るため、平成27年度から平成30年度までに新たに5つの学術交流協定を締結し、6つの学術交流協定を更新した結果、学術交流協定は16となり、中期計画の数値指標の学術交流協定締結数の目標値15件を達成した。

### 《中期目標の期間終了時に見込まれる評価結果における「今後の課題」への対応》

#### ○地域との交流促進などによる学生の県内就職定着に向けた取り組みの強化

- ・県内企業との共同研究、受託研究を積極的に進め、学生も交えた地域との交流を促進した。
- ・県内のもづくり技術や県内企業等の理解促進等を図るため、県内企業の経営者や技術者等を外部講師として招き、県内企業の魅力や特徴の紹介なども含めた講義を行った。
- ・低年次からの県内企業への訪問やインターンシップの充実強化、県内企業に勤めるOBと学生との意見交換会の開催や就職ハンドブックの作成に取り組むとともに、県外出身学生の保護者に対する富山の情報掲載パンフレットの送付など、学生、保護者へ富山や富山の企業の魅力を発信し、県内就職の促進を図った。

## 【財務内容の改善】

### ○外部研究資金等の獲得

- ・「地域連携センターを拠点に国内外の企業・機関との共同研究を活発に展開し、科学研究費も堅調に増加している。
- ・各学科の多くの教員が積極的に科学研究費補助金などの競争的研究資金の申請に努めた。

### ○省エネルギーのための取り組み

- ・空調の更新等で省エネルギー設備を導入。全学的に光熱水費の使用状況を把握、分析の上、学内で公表、周知し、教員のコスト意識の醸成に努めた。

## 【自己点検評価及び情報提供】

### ○法人評価及び大学機関別認証評価への対応

- ・教育研究活動と業務運営について、毎年、業務実績に係る自己評価を実施し、これについて富山県公立大学法人評価委員会の評価を受審している。また、これをホームページにて公表するとともに、その評価結果（特に「改善を要する点」として指摘のあった事項）について改善を進めるため、学内全教職員へ周知している。
- ・平成28年度に受審した認証評価機関による評価結果を踏まえ、引き続き教育研究活動等の改善や法人としての危機管理規程等を整備した。

### 《中期目標の期間終了時に見込まれる評価結果における「今後の課題」への対応》

#### ○認証評価機関による評価結果を踏まえた大学院工学研究科の再編について検討

- ・入学定員充足率が低いとされた大学院博士後期課程について、これまで5専攻定員18名としていた入学定員を1専攻定員10名とし、前期課程も含めた大学院工学研究科の再編の手続を完了した。

## 【その他の業務運営】

### ○情報リテラシー研修の充実

- ・近年増加しているサイバー攻撃に対する意識の向上に資するため、情報セキュリティ職場研修を実施し、セキュリティ意識の向上を図った。

### 《中期目標の期間終了時に見込まれる評価結果における「今後の課題」への対応》

#### ○全学的な情報セキュリティ体制の整備や必要な危機管理マニュアルの整備

- ・平成30年5月に発生したセキュリティインシデントに対応して、様々な再発防止策を実施し、導入した。これらの防止策を確実に運用し、全学的な情報セキュリティ体制の整備を進めた。
- ・法人としての危機管理規程を整備するとともに、特に必要性の高い災害発生時等の対応に関するマニュアルを整備した。今後も、順次必要なマニュアルの整備を進めていく。

【概要説明資料1】（※自己評価結果「Ⅲ」を除く部分（本掲のみ） 抜粋）

| 第1 教育に関する目標を達成するための措置   |   |      |
|---|---|------|
| 中期計画  | 中期計画の実施状況   | 自己評価 |
| <b>1 学生の確保に関する目標を達成するための措置</b>  |   |      |
| ウ 入試のあり方の改善<br>【学士課程】<br>・国の大学入試改革の議論を踏まえ、入学者選抜のあり方を検討する。   | ・文部科学省及び大学入試センター、公立大学協会等主催の会議や連絡協議会、各種通知等を通じ情報収集に努め、平成30年11月に大学入学共通テストのプレテストを本学においても実施したり、令和3年度入学者選抜の実施にあたり新型コロナウイルス感染症対策を行うなど、随時、必要な見直し・対応を行った。<br>・入試・学生募集委員会等において、令和3年度入学者選抜から実施となる大学入学共通テスト等の入試改革の概要や他大学の検討状況について情報共有を行うとともに、本学の入学者選抜について必要な検討・対応を随時行った。<br>・国の大学入試改革の議論や他大学の対応状況等について情報収集に努めながら、入学者選抜の見直しを進めた。 | Ⅳ    |
| <b>2 教育内容及び教育の成果に関する目標を達成するための措置</b>  |   |      |
| <b>(2) 特色ある教育の推進</b>  |   |      |
| ア 地方創生に向けた教育の推進<重点><br>・地域の特性を自ら見出し、地方創生を考える人材を育成するため、地域との対話、協働を重視した地(知)の拠点整備事業(COC事業)など、学生の社会参画力や課題解決力を伸ばす特色ある教育を推進する。 | ・10名程度の少人数ゼミを中心に、地域との対話・交流・協働を行う地域協働授業を実施した。<br>(平成27年度 65ゼミ、平成28年度 70ゼミ、平成29年度 65ゼミ、平成30年度 62ゼミ、令和元年度70ゼミ、令和2年度45ゼミ)<br>・他大学と連携し、未来の地域リーダー制度の制定、課題解決型インターンシップの実施、大学コンソーシアム科目の実施など地方創生推進事業に積極的に取り組んだ。   | Ⅳ    |

| 第2 研究に関する目標を達成するための措置  |   |      |
|--|---|------|
| 中期計画   | 中期計画の実施状況   | 自己評価 |
| <b>1 研究の方向性と研究の成果に関する目標を達成するための措置</b>  |   |      |
| <b>(1) 産業、保健及び医療の発展に貢献する研究の推進</b>  |   |      |
| イ 競争的外部資金の獲得の促進<br>・研究競争力を高めるため、科学研究費補助金などの競争的研究資金の獲得の促進に努める。  | ・各学科において、多くの教員が積極的に科学研究費補助金などの競争的研究資金の申請に努めた。<br>【採択件数】H27:54件、H28:63件、H29:77件、H30:75件、R1:94件、R2:109件<br>【新規採択率】H27:23.9%、H28:26.6%、H29:23.2%、H30:21.1%、R1:25.8%、R2:28.4% | Ⅳ    |
| エ ERATOやさきがけ事業の推進<br>・JSTの戦略的創造研究推進事業に採択された「浅野酵素活性分子プロジェクト(ERATO)」や「女王蜂における寿命制御機構の解明(さきがけ)」を推進するなど、国際水準の研究開発に取り組む。 | ・JSTの戦略的創造研究推進事業に採択された「浅野酵素活性分子プロジェクト(ERATO)」は、最高評価を得た。それらの研究成果を活かして共同研究に取り組んだ。また、平成30年度に採択されたくすりのシリコンバレーTOYAMA創造コンソーシアムに参画し、最先端の研究を推進した。                                 | Ⅳ    |

| 第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置  |   |      |
|--|---|------|
| 中期計画   | 中期計画の実施状況   | 自己評価 |
| <b>1 地域・社会への貢献に関する目標を達成するための措置</b>   |   |      |
| <b>(4) 地域課題解決への貢献</b>  |   |      |
| ア 地域課題解決に全学的に取り組む「地域協働型大学」の構築<br>・地域の課題に対して広く「教育」「研究」「地域連携」の観点から全学を挙げて取り組むCOC事業を推進し、地域との「交流」「対話」「協働」を通じて、学生の社会参画力や課題解決力の育成、より地域を志向した研究活動の実施、企業の人材育成支援や生涯学習の充実など、「地域協働型大学」の構築を図る。 | ・10名程度の少人数ゼミを中心に、地域との対話・交流・協働を行う地域協働授業を実施した。<br>(平成27年度 65ゼミ、平成28年度 70ゼミ、平成29年度 65ゼミ、平成30年度 62ゼミ、令和元年度 70ゼミ、令和2年度45ゼミ)【再掲】(第1-2-(1))<br>・主体的な学びを推進することをテーマとしたFD研修会や、教員有志による「地域協働授業マニュアル」を作成しその導入を促す取組み等に努めた。<br>・履修の手引き、図書館利用案内等でアクティブラーニング協働スペースの活用を周知した。<br>【再掲】(第1-2-(1))<br>・10名程度の少人数ゼミを中心に、地域との対話・交流・協働を行う地域協働授業を実施し、地域課題を発見し、解決に向けた取り組みを実施した。また、学生団体(COCOS)による活動も行われ、地域課題解決に取り組んだ。 | Ⅳ    |

| 第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置                                     |  |      |
|--|--|------|
| 中期計画   | 中期計画の実施状況  | 自己評価 |
| <b>1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置</b>                               |  |      |
| ・科学研究費補助金や受託研究費をはじめとする外部研究資金に関する情報の収集に努めるとともに、申請に対する支援体制を充実する。 | ・ものづくりサテライト・ラボの利用促進に努めるとともに、JSTやNEDOなどへの申請書類チェックを実施し、共同研究や受託研究の獲得支援に努めている。(H27:共同研究71件・受託研究16件、H28:共同研究60件・受託研究26件、H29:共同研究56件・受託研究28件、H30:共同研究56件・受託研究35件、R1:共同研究68件・受託研究34件、R2:共同研究75件・受託研究37件)【再掲】(第2-1-(1))<br>・各学科において、多くの教員が積極的に科学研究費補助金などの競争的研究資金の申請に努めた。<br>【採択件数】H27:54件、H28:63件、H29:77件、H30:75件、R1:94件、R2:109件<br>【新規採択率】H27:23.9%、H28:26.6%、H29:23.2%、H30:21.2%、R1:25.8%、R2:28.4%<br>【再掲】(第2-1-(1)) | Ⅳ    |

【概要説明資料2】 中期目標期間終了時に見込まれる業務実績評価における「今後の課題」への対応状況について

【課題その1】 志願者の増加に向けた大学の認知度向上を図る取組み等の強化・

≪第1期中期目標期間の対応状況等(「第1期中期目標の期間における業務の実績に関する報告書」より抜粋)≫

| 第1 教育に関する目標を達成するための措置   |  |      |
|---|--|------|
| 中期計画  | 計画の進捗状況等   | 自己評価 |
| <b>1 学生の確保に関する目標を達成するための措置&lt;重点&gt;</b>                                  |  |      |
| <p>・平成30年代に再び顕著となる18歳人口の減少を見据え、大学認知度を向上させて、北陸新幹線沿線地域など県外からの志願者の増加を図る。</p> | <p>・質の高い看護人材の確保という県内医療機関等のニーズに応え、また、県内外の高校生の進学先を県内に確保し、若者や女性の県内定着を図るため、平成31年4月に入学定員120名の看護学部を開設した。</p> <p>・東海北陸地域や北陸新幹線沿線に設置する工学部一般選抜前期日程の地方試験会場地域(愛知、石川、福井、大宮、高崎、長野、上越、宇都宮)等において、高校の進路指導教員を対象とした大学説明会や学生募集参加による高校訪問活動を実施するとともに、民間事業者が実施する進学ガイダンス等に参加するなど、県外における認知度向上に努めた。</p> <p>・受験情報誌やWebサイトを活用した広告発信を強化するとともに、看護学部の開設や射水キャンパス中央棟の供用開始に伴い、新たに大学紹介映像を制作・配信したり、従来の対面式に加え、新たにWeb形式のオープンキャンパスを実施するなど、幅広くPRを行った。</p> <p>・工学部一般選抜前期日程において、名古屋、長野、大宮に地方試験会場を設けた。</p> <p>・期間中、継続的にPR活動を実施し、県外からの志願者の増加に努めた。</p> | Ⅲ    |
| <p>・県内高校の生徒や保護者向けの学生募集活動を充実させ、優秀な県内入学者の確保を図る。</p>                         | <p>・学生募集参加による県内高校への訪問活動や高校生・保護者・教員等を対象とした大学見学等において、県内高校出身者に対する推薦枠や特待生制度について積極的にPRを行った。</p> <p>・サテライトキャンパス及び大学・学科紹介講座(教員による高校での出前講座)、大学PRキャラバン隊(教員による高校訪問活動)や学長等による県内高校訪問、オープンキャンパス、高校生・保護者・教員等を対象とした大学見学の開催などの学生募集活動を行った。</p> <p>・期間中、継続的にPR活動を実施し、優秀な県内入学者の確保に努めた。</p>  | Ⅲ    |
| <p>・工学部において、優秀な女子学生を確保するため、学生募集広報活動における女子生徒の興味・関心の喚起・向上に向けた取組みを推進する。</p>  | <p>・進路ガイダンスやオープンキャンパス等において、女子生徒向けの大学紹介冊子「工学Girl」を女子生徒を中心に配布するなど、女子学生の確保に向けた働きかけを行った。</p> <p>・看護学部の開設や射水キャンパス中央棟の供用開始に伴い新たに制作した大学紹介映像の卒業生インタビューに女性を起用したり、大学説明会等において生物工学科や医薬品工学科の女子比率の高さをPRするなど、女子生徒の興味・関心の向上に取り組んだ。</p> <p>・高校生向け特設サイトでリケジョのインタビューを発信するなど、女子生徒の関心の喚起を行った。</p>   | Ⅲ    |

【課題その2】 学生の県内企業就職率の向上に向けた取組みの強化・

≪第1期中期目標期間の対応状況等(「第1期中期目標の期間における業務の実績に関する報告書」より抜粋)≫

| 第1 教育に関する目標を達成するための措置   |  |      |
|---|--|------|
| 中期計画  | 計画の進捗状況等   | 自己評価 |
| <b>2 教育内容及び教育の成果に関する目標を達成するための措置</b>  |  |      |
| <b>(2) 特色ある教育の推進</b>  |  |      |
| <p><b>エ キャリア教育の推進&lt;重点&gt;</b></p> <p>・学生のキャリア形成につながる実践的かつ体系的なプログラムを、入学から卒業まで一貫して実施する。</p>             | <p>・進路ガイダンス、企業を知る木曜日(シルモク)、学内合同企業研究会、個別の就職指導等の充実に取り組むとともに、県内関係機関で開催される各種就職ガイダンス等への学生の積極的な参加を促した。</p>   | Ⅲ    |
| <p>・学生の自立心や社会性を涵養し、実戦力や就業力を育成するため、キャリア教育の内容の充実にも努めるとともに、企業、保健医療福祉施設(以下「医療機関等」という。)、専門機関などとの連携を促進する。</p> | <p>・県内企業への就職活動を支援する専任の県内就職定着促進員をキャリアセンターに配置し、企業の人材ニーズ把握や採用を促進するため県内企業を訪問するなど、卒業生の県内就職定着の促進に取り組んだ。また、学生増に伴い就職支援の充実強化を図るため、キャリアセンター機能の移転拡充を行った。</p> <p>・県内ものづくり技術や県内企業等の理解促進等を図るため、県内企業の経営者や技術者等を外部講師としてとして招き、県内企業の魅力や特徴の紹介なども含めた講義を行った。また、一部の講義では、機電工業会と連携して県内企業の工場見学を実施すると共に、若手技術者と学生との小グループ意見交換会を実施した。</p> <p>・学部の3年生と、博士前期の1年生対象の県内の建設・環境系企業研究会を開催し学生の企業理解を深めた。</p> <p>・県内業界団体との交流会・意見交換会を積極的に開催し、県内企業との連携を強化した。</p> <p>・学生を対象とした企業業界研究ワークショップを開催し、学生のキャリア形成を支援した。</p> <p>・とやま若手技術者勉強交流会を立ち上げ、本学卒業生を含む県内企業の若手技術者と学生の間で技術動向に関する情報共有を図り、学生の職業意識を高めた。</p> | Ⅲ    |
| <p>・学生のキャリア形成支援を行うキャリアセンターの取組みを強化する。</p>  | <p>・低年次からの県内企業への訪問やインターンシップの充実強化、県内企業に勤めるOBと学生との意見交換会の開催や就職ハンドブックの作成に取り組むとともに、県外出身学生の保護者に対する富山の情報掲載パンフレットの送付など、学生、保護者へ富山や富山の企業の魅力を発信し、県内就職の促進を図った。また、県内企業が自己PRする授業の拡充や企業に学生の就職状況に関する情報を提供する説明会の開催などの取組みを行った。</p> <p>・看護学部生のキャリア支援のため、富山キャンパスにおけるキャリアセンターサテライト開設に向けて準備に着手した。</p>  | Ⅲ    |
|   | <p>・県内企業に就職した県外出身卒業生の生活の安定に資するため住居費助成を行った。</p>   | Ⅲ    |

|   |   |   |
|---|---|---|
| オ 大学コンソーシアムを活用した教育の提供<br>・大学コンソーシアム富山に参加し、県内の高等教育機関と連携した多様な教育活動を実施する。 | ・大学コンソーシアム富山が実施する県内企業への合同企業訪問に、本学スタッフおよび学生が積極的に参加するとともに、県内企業訪問の在り方について検討した。 | Ⅲ |
|---|---|---|

## 第2 研究に関する目標を達成するための措置

|      |          |      |
|------|----------|------|
| 中期計画 | 計画の進捗状況等 | 自己評価 |
|------|----------|------|

### 2 研究実施体制に関する目標を達成するための措置

#### (3) 研究活動の評価及び改善

|  |   |   |
|--|---|---|
| イ 教員にインセンティブを与える評価の仕組みづくり<br>・研究のさらなる活性化を図るため、教員にインセンティブを与える評価の仕組みを検討する。 | ・教育、研究、社会貢献、大学運営、県内就職支援の5領域について、各領域ごとの教員の活動実績をもとに、学長自らが大学貢献度を評価するとともに、学長裁量経費の傾斜配分を行い、教員のインセンティブを与えることで、教員の資質の更なる向上に努めた。また、工学部において、県内就職支援の領域のうち「県内定着の取組み」で特に優れた実績をあげた教員に特別配分し、県内就職定着の推進に努めた。 | Ⅲ |
|--|---|---|

## 【課題その3】 看護学部における県内定着に向けた就職支援体制の整備

≪第1期中期目標期間の対応状況等(「第1期中期目標の期間における業務の実績に関する報告書」より抜粋)≫

### 第1 教育に関する目標を達成するための措置

|      |          |      |
|------|----------|------|
| 中期計画 | 計画の進捗状況等 | 自己評価 |
|------|----------|------|

### 4 学生への支援に関する目標を達成するための措置

#### (3) キャリア形成支援《重点》

|  |   |   |
|--|---|---|
| ・看護学部において、県内の医療機関等との連携を強め、県内定着に向けた就職支援体制の整備を進める。 | ・県内の医療機関等への就職支援活動として、県内の保健医療福祉施設との連携を図りつつ、就職に向けた情報提供や相談を富山キャンパスにおいても実施した。 | Ⅲ |
|--|---|---|

## 【課題その4】 地域との交流促進などによる学生の県内就職定着に向けた取組みの強化

≪第1期中期目標期間の対応状況等(「第1期中期目標の期間における業務の実績に関する報告書」より抜粋)≫

### 第1 教育に関する目標を達成するための措置

|      |          |      |
|------|----------|------|
| 中期計画 | 計画の進捗状況等 | 自己評価 |
|------|----------|------|

### 2 教育内容及び教育の成果に関する目標を達成するための措置

#### (2) 特色ある教育の推進

|   |  |   |
|---|--|---|
| エ キャリア教育の推進《重点》<br>・学生のキャリア形成につながる実践的かつ体系的なプログラムを、入学から卒業まで一貫して実施する。                             | ・進路ガイダンス、企業を知る木曜日(シルモク)、学内合同企業研究会、個別の就職指導等の充実に取り組むとともに、県内関係機関で開催される各種就職ガイダンス等への学生の積極的な参加を促した。  | Ⅲ |
| ・学生の自立心や社会性を涵養し、実戦力や就業力を育成するため、キャリア教育の内容の充実に努めるとともに、企業、保健医療福祉施設(以下「医療機関等」という。)、専門機関などとの連携を促進する。 | ・県内企業への就職活動を支援する専任の県内就職定着促進員をキャリアセンターに配置し、企業の人材ニーズ把握や採用を促進するため県内企業を訪問するなど、卒業生の県内就職定着の促進に取り組んだ。また、学生増に伴い就職支援の充実強化を図るため、キャリアセンター機能の移転拡充を行った。 | Ⅲ |

| 第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置   |  |      |
|---|--|------|
| 中期計画  | 計画の進捗状況等   | 自己評価 |
| 1 地域・社会への貢献に関する目標を達成するための措置   |  |      |
| (5) 地域への優秀な人材の供給《重点》  |  |      |
| <b>ア インターンシップなどを通じた交流の促進</b><br>・学外関連実習やインターンシップの充実、共同研究や受託研究などへの学生参加の促進など、県立大学研究協力会会員をはじめとする県内企業や研究機関との交流を深めるとともに、地域連携センターを中核とした地域ネットワーク体制を強化する。 | ・県内企業との共同研究、受託研究を積極的に進め、学生も交えた地域との交流を促進した。<br>・県内のものづくり技術や県内企業等の理解促進等を図るため、県内企業の経営者や技術者等を外部講師として招き、県内企業の魅力や特徴の紹介なども含めた講義を行った。また、一部の講義では、機電工業会と連携して県内企業の工場見学を実施すると共に、若手技術者と学生との小グループ意見交換会を実施した。<br>・地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)において、他大学と連携し、未来の地域リーダーの育成、インターンシップやキャリア形成教育に取り組む<br>・未来の医薬品産業を担う人材を育成し、県内就職を促進するため、東京圏の大学の学生を対象にサマースクールを実施した。 | Ⅲ    |
| <b>イ 県内で就職した卒業生とのネットワークの構築</b><br>・県立大学研究協力会会員をはじめとする県内企業や研究機関などに就職した卒業生とのネットワークの構築を図る。   | ・低年次からの県内企業への訪問やインターンシップの充実強化、県内企業に勤めるOBと学生との意見交換会の開催や就職ハンドブックの作成に取り組むとともに、県外出身学生の保護者に対する富山の情報掲載パンフレットの送付など、学生、保護者へ富山や富山の企業の魅力を発信し、県内就職の促進を図った。また、県内企業が自己PRする授業の拡充や企業に学生の就職状況に関する情報を提供する説明会の開催などの取り組みを行った。   | Ⅲ    |

### 【課題その5】 認証評価機関による評価結果を踏まえた大学院工学研究科の再編について検討

《第1期中期目標期間の対応状況等(「第1期中期目標の期間における業務の実績に関する報告書」より抜粋)》

| 第6 自己点検評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置  |  |      |
|---|--|------|
| 中期計画  | 計画の進捗状況等   | 自己評価 |
| 1 評価の充実に関する目標を達成するための措置   |  |      |
| ・教育研究活動について、認証評価機関による評価を受審し、評価結果を活動の改善に適切に反映させる体制を整備するとともに、ホームページなどで公表する。 | ・平成28年度に受審した認証評価機関による評価結果を踏まえ、引き続き教育研究活動等の改善に努めた。この結果、法人としての危機管理規程等を整備するほか、入学定員充足率が低いとされた大学院博士後期課程について、これまで5専攻18名としていた入学定員を1専攻定員10名とし、前期課程も含めた大学院工学研究科の再編の手続を完了した。 | Ⅲ    |

### 【課題その6】 全学的な情報セキュリティ体制の整備や必要な危機管理マニュアルの整備

《第1期中期目標期間の対応状況等(「第1期中期目標の期間における業務の実績に関する報告書」より抜粋)》

| 第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置   |  |      |
|--|--|------|
| 中期計画   | 計画の進捗状況等   | 自己評価 |
| 2 安全管理等に関する目標を達成するための措置  |  |      |
| (1) 安全衛生管理   |  |      |
| ・災害時・緊急時等の危機管理マニュアルの策定や防災訓練の内容の随時見直しなど、危機管理体制を整備する。                            | ・新たに法人としての危機管理規程を整備するとともに、特に必要性の高い災害発生時等の対応に関するマニュアルを整備した。今後も、順次必要なマニュアルの整備を進める。   | Ⅲ    |
| (2) 情報セキュリティ体制の整備  |  |      |
| ・学内の情報セキュリティ体制の整備と情報管理の適正化を図るとともに、情報システム利用に関する研修会を実施するなど、教職員と学生の情報リテラシーの向上を図る。 | ・近年増加しているサイバー攻撃に対する意識の向上に資するため、情報セキュリティ職場研修を実施し、セキュリティ意識の向上を図った。<br>・平成30年5月に発生したセキュリティインシデントに対応して、様々な再発防止策を実施し、導入した。これらの防止策を確実に運用し、全学的な情報セキュリティ体制の整備を進めた。<br>・富山県立大学個人情報等の安全管理に関する基本方針等に基づき、安全管理措置を講じ、その適正な収集・保管・利用等に努めている。 | Ⅲ    |

○ その他参考事項

公立大学法人富山県立大学中期計画 数値指標に係る状況等

| 項目  | 目標値    | 期間等      |
|---|--------|----------|
| <b>第1 教育に関する目標を達成するための措置</b>              |        |          |
| 1 志願倍率(工学部)                               | 5倍台    | 期間平均     |
| 同上(看護学部)                                  | 3倍以上   | 期間平均     |
| 2 入学者県内比率(工学部)                            | 30%代後半 | 期間平均     |
| 同上(看護学部)                                  | 60%以上  | 期間平均     |
| 3 学部卒業生の大学院(修士課程)進学率                      | 40%程度  | 期間末まで    |
| 4 地域協働科目実施教員割合                            | 80%以上  | 期間末累計    |
| 5 学生満足度(アンケート)<br>※授業科目の内容をある程度理解できた学生の割合 | 80%以上  | 期間平均     |
| 6 就職内定率                                   | 100%   | 期間内(各年度) |
| 7 県内企業就職率                                 | 50%以上  | 期間末まで    |

| R2年度評価実績 | (説明)                     |
|----------|--------------------------|
| 4.2 倍    | H27～R2年度の単純平均            |
| 4.2 倍    | R1～R2年度の単純平均             |
| 39.8 %   | H27～R2年度入学者総数のうち県内出身者の割合 |
| 59.7 %   | R1～R2年度入学者総数のうち県内出身者の割合  |
| 34.2 %   | 計画期間の最新年度(R2年度)の進学率      |
| 79.5 %   | 計画期間の最新年度(R2年度)の割合       |
| 80.3 %   | H27～R2年度の単純平均(工学部・大学院)   |
| 95.0 %   | R1～R2年度の単純平均(看護学部)       |
| 98.3 %   | 計画期間の最新年度(R2年度)の内定率      |
| 45.9 %   | 計画期間の最新年度(R2年度)の就職率      |

<参考>各年度の状況(単年度)

| R2年度<br>(2020) | R1年度<br>(2019) | H30年度<br>(2018) | H29年度<br>(2017) | H28年度<br>(2016) | H27年度<br>(2015) | 備考       |
|----------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------|
| 4.3            | 3.1            | 4.0             | 5.1             | 3.6             | 4.9             | 学生募集係    |
| 4.1            | 4.3            | —               | —               | —               | —               | 学生募集グループ |
| 43.4           | 39.7           | 37.2            | 39.6            | 38.4            | 40.6            | 学生募集係    |
| 60.8           | 58.5           | —               | —               | —               | —               | 学生募集グループ |
| 34.2           | 32.9           | 33.6            | 29.6            | 35.4            | 32.0            | 学生係      |
| 79.5           | 76.5           | 76.4            | 79.4            | 65.8            | 59.8            | 教務係      |
| 83.2           | 80.6           | 78.6            | 79.2            | 80.0            | 80.0            | 教務係      |
| 95.9           | 94.1           | —               | —               | —               | —               | 教務グループ   |
| 98.3           | 99.1           | 99.6            | 100.0           | 99.5            | 100.0           | 学生係      |
| 45.9           | 49.1           | 41.3            | 41.8            | 41.9            | 42.8            | 学生係      |

**第2 研究に関する目標を達成するための措置**

|                     |     |      |
|---------------------|-----|------|
| 8 科学研究費補助金の採択件数(年間) | 50件 | 期間平均 |
| 9 受託研究件数(年間)        | 25件 | 期間平均 |
| 10 共同研究件数(年間)       | 65件 | 期間平均 |

| R2年度評価実績 | (説明)          |
|----------|---------------|
| 79 件     | H27～R2年度の単純平均 |
| 29 件     | H27～R2年度の単純平均 |
| 64 件     | H27～R2年度の単純平均 |

| R2年度 | R1年度 | H30年度 | H29年度 | H28年度 | H27年度 | 備考    |
|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 109  | 94   | 75    | 77    | 63    | 54    | 情報研究係 |
| 37   | 34   | 35    | 28    | 26    | 16    | 情報研究係 |
| 75   | 68   | 56    | 56    | 60    | 71    | 情報研究係 |

**第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置**

|                               |       |       |
|-------------------------------|-------|-------|
| 11 若手エンジニアステップアップセミナー受講者数(年間) | 80人   | 期間平均  |
| 12 公開講座受講者数(年間)               | 320人  | 期間平均  |
| 13 地域課題解決に向けた企業、NPO等などの連携団体数  | 30団体  | 期間末累計 |
| 14 学生の海外体験者数                  | 90人   | 期間末累計 |
| 15 留学生の在学者数                   | 30人以上 | 期間末まで |
| 16 学術交流協定締結数                  | 15件   | 期間末累計 |

| R2年度評価実績 | (説明)                      |
|----------|---------------------------|
| 56 人     | H27～R2年度の単純平均             |
| 750 人    | H27～R2年度の単純平均             |
| 53 団体    | 計画期間の最新年度(R2年度)末現在の団体数    |
| 144 人    | 計画期間の最新年度(R2年度)末現在の累積体験者数 |
| 39 人     | 計画期間の最新年度(R2年度)末現在の留学生数   |
| 16 件     | 計画期間の最新年度(R2年度)末現在の協定締結数  |

| R2年度  | R1年度 | H30年度 | H29年度 | H28年度 | H27年度 | 備考           |
|-------|------|-------|-------|-------|-------|--------------|
| 41    | 22   | 54    | 66    | 93    | 61    | 情報研究係        |
| 1,183 | 835  | 655   | 745   | 396   | 684   | 情報研究係、教務グループ |
| 53    | 42   | 39    | 38    | 70    | 72    | 教務係          |
| 0     | 30   | 38    | 23    | 28    | 25    | 学生係          |
| 39    | 44   | 37    | 35    | 34    | 26    | 学生係          |
| 16    | 16   | 15    | 13    | 13    | 13    | 学生係          |